

九条だより

第116号

北広島九条の会 2017.8.1 発行
事務局 梁川彰博 (ヤガワ アキヒロ)
TEL・FAX 375-9600
メール kitahiro-9jounokai@live.jp
ホームページ www.kitahiro9.jp

◎8月例会のお知らせ

「北広島の戦争遺跡を巡るバスツアー」

8月11日(金・祝) 午前9時 団地住民センター前に集合

出発 9時15分 帰着 午後0時30分

申込(事務局・やながわまで ☎FAX 375-9600) 締切 8月6日(日) 定員 35名

参加費(資料、保険料、飲み物など) 300円 (高校生以下無料)

□□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□

◎北広島九条の会第11回総会のお知らせ。

北広島九条の会の2017年度の第11回総会は、10月1日に「設立10周年記念行事」を行うために、一カ月繰り上げることにしました。

記念講演に、中村睦男北大名誉教授をお招きします。ご期待ください。

と き 9月3日(日) 午後2時～

と ころ 団地住民センター

◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇

◎7月16日大通西3丁目、市民と4野党の共同の街頭宣伝が行われる。

直前までの激しい雨がウソのように晴れ上がった7月16日夕方の大通公園に、500名を超える参加者の「安倍はやメロ」の声が響き渡りました。市民の風とユニキタが主催、社民党副党首の福島瑞穂参議院議員、民進党池田まきさん、共産党畠山衆議院議員、自由党小沢党首のメッセージ、そして上田弁護士が熱弁をふるいました。昨年の参議院選挙以来、初めての立憲4野党による合同の街頭演説でした。

「市民と野党の共闘を求める5区の会」が4野党合同の街頭宣伝を、以下の日程で行います。ぜひお聞きください。

8月20日(日) 午後1時～1時40分 地下鉄新さっぽろ5番出入口

9月9日(土) 午後1時～1時40分 地下鉄新さっぽろ5番出入口

北広島では、市民連合北広島が主催して、8月19日に午後4時から生協北広島店付近で街頭宣伝を計画します。都議選での自民党大敗北に引き続き、「安倍ノー」の声をさらに広げましょう。内閣支持率は急降下、30%を割っています。

◎「盧溝橋事件 80 年—7.7 平和集会」

置き去りにされた植民地支配の精算—内海愛子さんが講演

7月7日を日中戦争という日本による侵略の戦争が始められた「盧溝橋事件」の日として知っている人が今どれだけいるでしょうか。「7.7 平和集会」が 32 回目を迎えたこの日、会場となったかでの 2・7 には、主催者「7.7 平和集会実行委員会」の予想をはるかに超える 300 人の方が詰めかけました。

講演された内海愛子さんは、長くこの「不条理」に携われてきました。内海さんは言います。日本が朝鮮を植民地としていた 1938（昭和 13）年に「志願兵制度」をつくり、事実上の「徴兵」としたところに、この「置き去り」の発端があると話されます。徴兵した軍人は 360 千人、軍属 240 千人にも上り、それは朝鮮の他、旧満州、中国、台湾にもおよびました。この人たちへの「軍人恩給」の支給が、日本人でないことを理由に「不支給」とされ、さらに傷病年金も 1950（昭和 25）年 4 月、日本国籍でない事を理由にきられてしまいました。当時の日本政府は「日本国籍をとれば処遇する」としました。内海氏は「これは筋が違うだろう」と鋭く告発します。

1951（昭和 26）年のサンフランシスコ講和条約は、欧米の「和解」ではあっても、アジアは「和解の外（そと）」であったのです。

朝鮮、台湾のこうした軍人たちは、いわゆる「戦犯」裁判には「日本軍兵士」として裁かれました。横浜、シンガポールで行われたそれでは、朝鮮 148 人、台湾 173 人（獄中死亡含む）が有罪の判決を受けました。「旧日本軍人」は「戦犯は犯罪ではない」として軍人恩給の支給を受け、ヤスクニに合祀されたりしましたが、朝鮮、台湾の「旧日本軍人」は日本国籍がないと言うことを持って「枠外」の扱いでした。

戦後処理の「不条理」は、空襲など民間の犠牲者にはいまだ何の賠償もされていません、軍人や軍属には「恩給」として 60 兆円もの大金を使っているにもかかわらずです。さらにアジア各地に放置されたままの「遺骨」の収集は遅々としてすすまないのが現状です。やっと不本意ながらの一時金の補償で決着された「シベリア抑留」は、ここでも在日韓国「旧日本軍兵士」は除外されたのです。

内海さんは、こうした取り組みに関わることになったことについて、「その裏にあるものがみえてきた、わかった時点で一つひとつやるよりない、その積み重ねが大事だ」と結びました。

この集会のもう一つに、特別報告として植村隆元朝日新聞記者の裁判についてご本人の発言がありました。「旧日本軍の慰安婦」という記事を朝日に掲載した氏が、2014 年北星大学非常勤講師で在勤中に、「慰安婦記事のねつ造記者」との激しいバッシングを受け、その名誉回復を求める裁判を闘っておられます。氏は現在、韓国のカトリック系大学の客員教授として赴任しており、韓国の新しい文大統領誕生の一部始終を見聞きした、その感動をあわせて発言されました。氏は最後に、この運動の中で、印象的な言葉に出会った、それは「記憶されない歴史は繰り返される」ということだったと結びました。

◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇

◎ホームページへの投稿を呼びかけます。「憲法と私」のコーナーです。

形式や長短、字数、回数は問いません。掲載はイニシャルです。

◎皆さんへ募金のお願い。会は、会員制をとっていません。すべての活動は文字通り皆さんの浄財が頼りです。是非ご協力をお願いします。

衆議院北海道五区に市民と野党の共闘を求める呼びかけ

今、日本は、安倍自公政権の下で、個人の尊厳が踏みにじられ、富める者がより富み、貧しき者がより貧しくなる格差と貧困が拡大する社会となっています。

また、戦後平和憲法の下で守り続けてきた「戦争しない国」から自公の多数による強権政治で安保法制を強行成立させ「戦争する国」へと大きく転換され、平和主義、民主主義、立憲主義が踏みにじられています。そればかりでなく、森友学園疑惑問題に見られるように、安倍首相による政治の私物化、教育勅語や銃剣道の学校教育への導入など戦前回帰の動きが強まっています。更には、今国会に上程された「共謀罪」(テロ等準備罪)の成立を許せば、物言えぬ暗黒社会になることは明らかです。「共謀罪」の成立を絶対阻止しなければなりません。

これらは、安倍自公政権が国民の支持を得られている結果ではなく、小選挙区制のもとわずか30%の得票で得られているものです。もし、安倍自公政権に代わり個人の尊厳を擁護する政策(安心して子育てでき、お金の心配なく誰もが教育・社会保障や介護が受けられ、働く人々の賃金格差や労働環境の改善、男女格差の解消、脱原発、辺野古基地建設を許さない等など)、失われた民主主義、平和主義、立憲主義の回復などの政策を掲げ、市民と野党が本気で闘う姿を国民に示すことができれば、政治の転換は可能と確信します。

そのために、政治を政治家や政党に任せるのではなく、主権者である私たち一人ひとりが要求を持ちより、その要求を実現させるため、来るべき衆議院選挙において、北海道五区で再び市民と野党が共闘し、統一候補を擁立しようではありませんか。今までの経緯や違いを乗り越え、安倍暴走政治にストップをかけ、政治を国民の手に取り戻すため「市民と野党の共闘を求める五区の会」に結集されるよう呼びかけます。

2017年5月20日

呼びかけ人(順不同、敬称略)

久保田幸次	北大名誉教授・厚別区	土居修一	筑波大元教授・厚別区
宮田汎	市民の風江別代表・江別市	金子弘	隠退牧師・江別市
清水裕二	元公立学校長・江別市	佐藤将	元公立学校長・北広島市
塩崎義郎	北海道新聞元論説委員・北広島市	藤田憲昭	僧侶・北広島市
北村英人	元自治労道執行委員長・北広島市	三上勝夫	道教育大名誉教授・当別町
宮川証法	僧侶・千歳市	吉田隆	全北海道退職教職員の会石狩札幌支部長・恵庭市

上記の趣旨に私も賛同します。

お名前	ご住所	連絡先

連絡先: 梁川(やながわ) ☎ FAX 011-375-9600